

2020年11月7日、23日 東洋大学ボランティアカフェ ONLINE

「意外と広い？ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」第1回、第2回を開催しました

ボランティア支援室では、気楽な雰囲気の中でボランティア・社会貢献活動に関する話題に触れることのできる機会として「東洋大学ボランティアカフェ（以下、ボラカフェ）」を開催。新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンライン開催を行っています。

11月度は福祉編として、3回シリーズを企画し、第1回・第2回を以下の通り開催しました。

- ・日時：2020年11月7日（土）10:00～11:30、11月23日（月）16:30～18:00
- ・会場：オンライン会場
- ・リソースパーソン：賀上 桜子さん
（東洋大学社会学部社会福祉学科3年、バリアフリーサークル歩み）
- ・モデレーター（進行役）：日比野 勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
- ・参加者：7日10名、23日9名

7日に開催された第1回は、バリアフリーサークル歩みの交流企画においても実施された、「カタカナ語のものを、カタカナ語を使わずに説明する」ゲームを3チーム対抗で行い、参加者間の関係を深めました。

23日に開催された第2回は、リソースパーソンの賀上さんより、バリアフリーサークル歩みの取り組みについてお話いただきました。

バリアフリーサークル歩みは、現在40名ほどのメンバーが集まり活動を行っています。2019年度は障害者スポーツボランティア活動や、メイン活動の1つに位置づけられる大学のオープンキャンパス時の移動支援活動、学園祭（白山祭）でのミニパンケーキ販売、年2回行われる合宿などです。今年度はコロナ禍でここに挙げられているような対面型の活動は行うことができませんでしたが、オンラインツールを活用しメンバー間で顔を合わせながら、ボランティア支援室や株式会社ミライロとの共同企画などの実施を予定*1しています。

はじまりは、創立者のオープンキャンパス時の経験にありました。車椅子に乗って生活していた創立者がオープンキャンパスへの参加を申し出たところ、別日程での参加を担当者に勧められました。その対応に配慮を感じたものの、オープンキャンパスを通じて感じたかった大学の雰囲気や、共に入学しようとしている学生の様子が、別日程への参加では感じ取れないということに不安を感じたそうです。そこで思い立ったのは、学生がオープンキャンパスの案内役となり、障害をもつオープンキャンパス来場者に対応すること。そうすることで、学生はバリアフリーについて考えながら行動することを通じて学びを深め、来場者は大学の雰囲気を掴むことができ、入学後に授業がはじまってからのキャンパスライフのイメージをより膨らませやすくなり、安心感を得られることにつながるからという考えからです。こうして2013年から活動を続けている歩みですが、障害領域に留まらない多様性を大切にするという価値観を、無意識的であってもメンバー間で共有していて、そのことが場にも現れているというメンバーからのコメントもありました。

今回は山梨学院大学からの参加者があり、山梨学院大学においてもスポーツで活躍する学生に対するピアサポート体制があるという事例の紹介から、学生によるピアサポートに関する話題へと発展していき

ました。山梨学院大学においても従来は教職員によって行われていたサポートが、数年前から学生によるピアサポート活動へと発展し、近年こうした動きは全国的に見られるようになってきています。それはまさに、歩みが発足した経緯でもある「学生にとっても、当事者との関わりを通じて大きな学びが得られること」が、一般的にも認知されたことにもよる広がりであるのではないかと考えられます。

賀上さん発表の最後の「誰もが暮らしやすい社会とは？」という問いについては、十分話し合う時間が取れないままにボラカフェは終了することになりましたが、この問いに対する思索は、次回第3回へと引き続いていくことになりました。

*1: 本企画実施当時の記述。当該企画は2020年12月13日に実施されました。



活動のきっかけ = 歩みの始まり

オープンキャンパスの体験

先生が別日に対応

→親切かもしれないけど…雰囲気をつかめない。

学生がやれば…

学生 → バリアフリーを考えながら行動する！

来場者 → 雰囲気がつかめる・安心感

学生が案内する = 双方にとって良い



(ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野 勲)